

単元名「地域の食について学ぼう」(全42時間)

対象：中学校

単元設定の理由

農産物を保存したり、行事に伴う料理や食品に加工したりする技術は、地域の暮らしの中で脈々と伝承・改良されてきた一つの文化である。これら伝統的な食生活を学習の内容とすることは、地域の歴史や文化を学ぶまたとない機会となる。

どんな郷土料理があるか、またどうしてそのような料理が生まれたかなど、おおよそは本やインターネットなどを使って調べることができる。しかし、調べ学習を価値のある学びにするためには、その地域の食についての豊富な知識を持っているお年寄りから伝え聞くことは非常に意義がある。しかし、地域の食の担い手であった人々が高齢期をむかえ、文化遺産でもある料理・食品加工の技術、および食生活そのものの内容などが、次世代に受けつがれないままに消え失せてしまうことが危惧されている。

単元の目標

生徒自らが食に対する関心を高め、地域の食について追求していく中から、地域の食材や郷土料理のよさや食を通じた地域のつながりを学びとり、自己の食生活を見直すとともに、家庭や地域の人たちにもそのよさを紹介することができる。

食の視点

地域に出向いての聞き取り調査や地域の人々から伝統的な料理を学ぶ体験を通して、地域の食文化や自然環境について知り、自分の生活に生かしたいことを考える。

単元の評価規準

- (1) 主体的・実践的な態度
 - ・ 地域の食材やその料理について関心をもち、進んで調べたり、作ったりしようとする。
 - ・ 特色ある食材や調理方法等の学習を通して、地域との関わりを積極的にもち、地域の一員としての自覚をもつ。
- (2) 問題解決能力
 - ・ 地域の食材調べに関する課題と、その追究方法についての手立てを考えることができる。
 - ・ 聞き取り調査や見学したことの中から、地域の食材や料理のよさに気付き、自分なりの考えをもつことができる。
- (3) コミュニケーション能力
 - ・ 聞き取り調査や体験活動の中で、問題解決に向けて様々な人と積極的にかかわることができる。
 - ・ 地域の人々や保護者とのふれあう活動を通して、人に対しての思いやりの気持ちをもつことができる。
- (4) 自己の生き方を考える
 - ・ 地域の食材や料理のよさに気付き、今までの生活を見直し、望ましい食習慣や食生活を生活の中に生かそうとすることができる。

学 習 活 動	時 配	教師の支援(方法・内容)
1 地域の食についての学習課題を設定する。		
(1) クラスでウェビングを行い、学習課題を見付ける。	1	・ 地域の食文化についてイメージするものをあげさせ、グループ化する。
(2) 追究したい課題を決定する。	1	・ グループ化したものより、食文化についてのテーマを具体的に設定させる。
<課題例> ○地域の食文化についての歴史 ○地域の方との交流 ○伝統料理に挑戦 ○その他		

(3) 課題解決のための活動計画表を作成する。	1	・個人で取り組んでいくテーマについて具体的に立案させる。 ・これまでの体験や生活を振り返って、地域と食との関連について結び付きを考えさせる。 ・だれに対して、どんな内容で、どんな手段を使って発表にするのかなど、目指すゴールを明確にさせる。
(4) 活動計画表を友達と検討し合う。	1	・テーマ、活動内容、目指すゴールについて友達と話し合わせる。 ・修正した活動計画表のコピーを取り、クラス分を集約し、活動内容などを把握する。
2 課題を設定しよう。 (1) それぞれのゴールを決めて、問題解決に取り組むことを決める。 (2) 課題解決のための手だてをグループで作成し、検討する。	1 1	・今後の活動は同じテーマをもつグループとして取り組むことを知らせる。 ・活動するときに留意すること、大切なことを話し合わせ、目標や内容、安全についての共通理解を図らせる。 ・役割分担を明確にさせる。 ・活動計画書を提出させる。
2 調べ活動 (1) 地域の食文化についての情報を収集する。 (2) 調べて分かったことをまとめる。	6 2	・見学や訪問のお願い、あいさつやマナーについて適宜、話し合わせ、相手先に失礼のないように事前の連絡・訪問の準備をさせる。 ・活動が有効となるよう、活動内容や活動方法について助言を行う。 ・調べ活動で分かったことを整理させ、写真や図、表などを使って、相手を意識したまとめ方を工夫させる。
3 中間発表会を開こう (1) 発表のための諸準備をする。 (2) 発表会で話を聞く。 (3) これからの学習を見通して、活動計画を作成する。	4 2 2	・テーマ、活動内容、目指すゴールについて調査した結果をもとに発表することを伝える。 ・お互いに分かったことを共有し合う場とする。 ・これまでの学習を振り返り、分かったことを整理させ、今後の課題や活動方法についての見直しを行わせる。 ・修正した活動計画表のコピーを取り、クラス分を集約し、活動内容などを把握する。
4 課題を更に追究しよう <活動例> ○調査活動(文献、インターネット、店や市場などに出向いて調べる、地域の人々に聞き取り調査をするなど) ○体験活動(農業や漁業を体験したり、地域の人々を呼んで調理を行ったりする) ○講師による講演	8	・見学や訪問のお願い、あいさつやマナーについて適宜、話し合わせ、相手先に失礼のないように事前の連絡・訪問の準備をさせる。 ・活動が有効となるよう、活動内容や活動方法について助言を行う。

5	まとめ	
(1)	準備をする。	6
(2)	発表会を開く	2
(3)	凝縮ポートフォリオを作成する。	4
(4)	学習を振り返る。	2

6	・ポスターセッション形式で発表を行うことを知らせる。 ・聞き手は保護者、地域住民、同級生とすることを知らせる。
2	・聞き手は発表での気付きを付箋紙に記入し、それぞれのポスターに貼る。なお、聞き手は同級生とすることを知らせる。 ・発表者は、聞き手に分かりやすく発表することを心掛けさせる。 ・発表はメンバーで割当てを行い、全員が発表を行うことを知らせる。 ・提示の方法として、調理したものを提示することも考えられるが、実演する場合は、衛生面や安全面について、十分に留意させる。
4	・体験・調査活動した時に収集した感想や情報(パンフレット、インタビューした内容、写真など)をまとめさせておく。 ・時系列にまとめたワークシートや資料などを再構成させ、凝縮ポートフォリオを作成させる。 ・地域の食文化について、自分が今後の生活の中に、取り入れたいことや食生活についての課題をまとめさせる。
2	・この活動を通して自分の成長を振り返り、自分の変容をまとめる。